

第4学年国語科 学習指導案

2014年6月26日 5校時

4年2組(男子10名 女子10名 計20名) 本時3/8

授業者 上田 浩稔

- 1 **単元名** 段落のつながりをとらえながら読もう
～びっくり！助け合いリーフレット交流会～
教材名 「ヤドカリとイソギンチャク」(東京書籍4年上)

2 単元の目標

- 生き物の関係に興味を持ち、助け合いの関係を分かりやすく説明することができる。
(関心・意欲・態度)
- 中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を意識して読むことができる。
(C 読むこと(イ))
- 目的や必要に応じて、助け合いの関係に注意しながら本を読み、文章の要点をとらえて、リーフレットにまとめることができる。
(C 読むこと(エ))
- 指示語や接続語を手がかりに文や段落相互の関係をとらえて文章を読むことができる。
(言(イ(ク)))

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

小学校学習指導要領・国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」と「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を取り上げて指導する。

②単元を貫く言語活動とその特徴

その際、「C 読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を具体化した、「段落のつながりを考えながら読み、自分が一番おどろいた生き物の共生についてリーフレットを作り、交流会をする。」という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる交流会は、説明文の内容と段落相互の関係をとらえたいうで、「共生する生き物のそれぞれの利益について、リーフレットに問いと答えの形に表して紹介し合う」というものである。

このことにより、本単元でねらう「段落相互の関係をとらえ、目的や必要に応じて、文章などを要約する能力」の育成に確実につながる言語活動にする。

本教材は、始め・中・終わりの構成が分かりやすく、中の部分が筆者の3つの問いと、それに対する答えによって構成されている。それをおさえることによって、文章全体の段落相互の結び付きや、本文に書かれているヤドカリとイソギンチャクの関係をとらえやすい教材である。

(2) 児童観

昨年度の学力調査の結果、本校では「読むこと」の領域において、必要な情報を取り出す力および目的に応じて大事な言葉や文を使って要約していく力に課題が見られた。そこで、学年の取り組みとして、発表の仕方や順序(自分の考え→理由)や、帯タイムの短作文では、字数を決めて自分の伝えたいことをまとめることを指導してきた。

児童は、3年生4月「自然のかくし絵」で、段落ごとの内容を正しく読み、本文から必要な言葉を抜き出し、かくし絵ブックにまとめる学習をした。そのことで、文章の要点をとらえたり、本の中から、自分が必要とする情報が書かれてあるところを見つけたりする力がついてきた。しかし、授業中の発言の仕方を見ると、話したいことはあるけれど話しているうちに長くなり、伝えたいことが漠然としてくるという姿も見られる。自分の考えを明確にし、そのことを中心にし

て簡潔にまとめることが必要である。そこで、本単元では説明文の効果的な説明の仕方や文章構成について学習し、問いに対する答え方をはっきりさせた上で、簡潔に相手に伝える方法を学び合い、日々の生活に生かすことのできる力を付けていきたい。

読書については、図書室にもよく通い、読書量も多い。しかし、興味を持って読んでいるのは物語が中心である。そこで、子どもたちの読書の幅を広げるために、科学読み物にも、関心をもたせたい。

(3) 指導観

第一次では、既習の「自然のかくし絵」の説明文とこれから学習する「ヤドカリとイソギンチャク」の説明文を読み比べ、文章の仕組みの違い（問いと答え）について考えさせる。また、その効果について話し合い、つかむ。その後、教師によるリーフレットを使った交流会のモデルを見て単元のゴールイメージをもつとともに様々な生き物の関係について、興味を持てるようにする。そして自分が興味をもった本の生き物について、友だちに向けて交流会を開くという学習のめあてをもたせる。

第二次では、問いと答えの段落をもとに、ヤドカリとイソギンチャクの関係について読んでいく。まず、始め・中・終わりの3つの構成から、教材文を5つのまとまりに分け、段落相互の関係についてとらえさせる。そして、その段落のキーワードや大切な言葉は何なのか意識させ、接続語や文末表現を意識しながら、要約していく。また、問いと答えで表すことは、自分の伝えたいことを読み手に着目させる効果があることにも気づかせたい。リーフレットは、始め・中・終わりの構成にし、「中」にあたる部分では、自分の伝えたいことが伝わるような問いになっているか、また、問いを受けて、二つの生き物の利益が伝わるような答えになっているかを意識させながら作成させるようにしたい。

今回は、昨年度の入れ子方式にかわり、A・B1セット方式で取り組む。二次の教材文で身に付けたことをすぐに次の時間、自分の選んだ本で活用することができるようにするためである。このことによって児童は「読む」ことに必要感をもって取り組むことができると思われる。

第三次では、「びっくり！助け合いリーフレット」をつかって交流する。それぞれの生き物の利益について、分かりやすく簡潔に表わされているか、自分の考えた文章は「助け合い」の関係が伝わる文章になっていたか、を振り返らせたい。また、友だちのリーフレットから、「もっと詳しく知りたい。」「その本を読んでみよう。」など、読書の幅が広がることを期待している。

さらに、「目的や必要に応じて、要約する力」や「問い」と「答え」の形式で説明する手法を、社会科見学のまとめにも生かし、本単元でつけた力を他教科でも活用できるようにしていきたい。

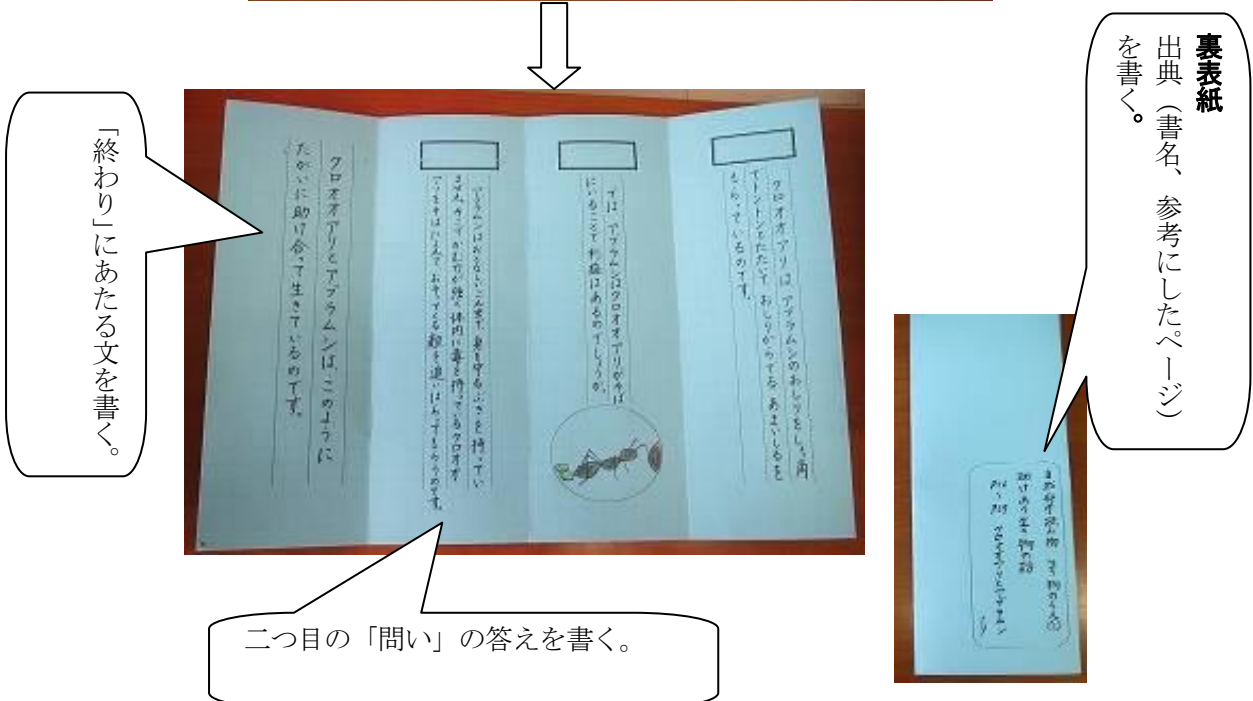
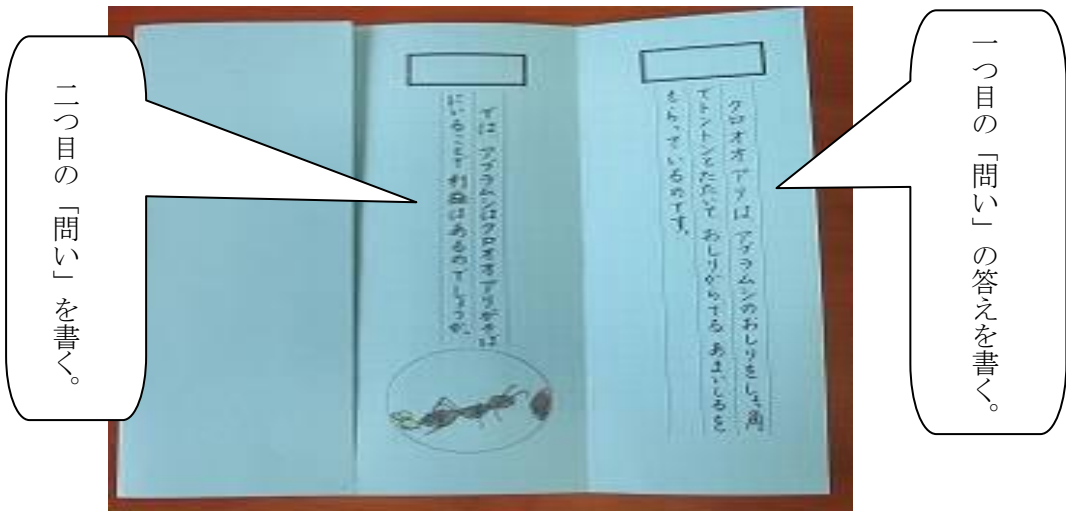
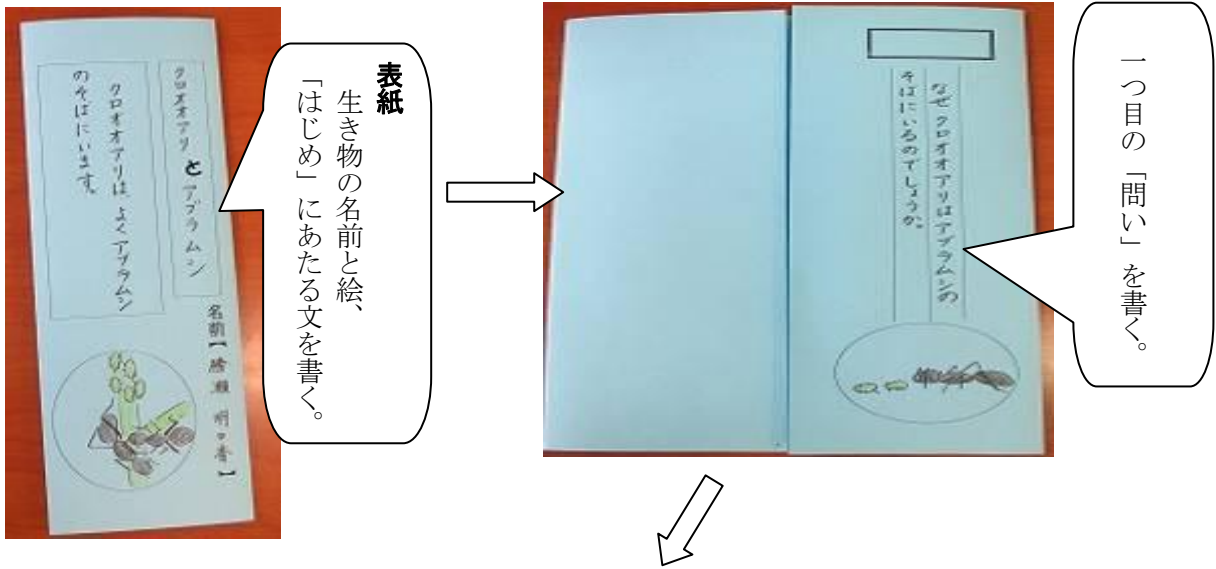
(4) 研究テーマとの関連

主体的に児童が学ぶためには、児童自身が単元を通して活動したり、学んでいくことに意欲を持ち、見通しを持って言語活動を展開したりする必要がある。そこで、導入では「びっくり！助け合いリーフレット交流会」のモデルを教員により提示し、友だちと交流会を開くことへの意欲や課題意識を高める。特に二次と三次のつながりを意識し、三次へ向けて児童がこれまでに付けた力を用いて、自分の選んだ本の生き物の助け合いの関係を問いと答えの文型を使って表わすようにしたい。さらに、段落相互の関係を意識し、友達と交流することで、説明の仕方や要約の方法など前時に学習したことを生かして主体的に学ぶ力を積み重ねたい。

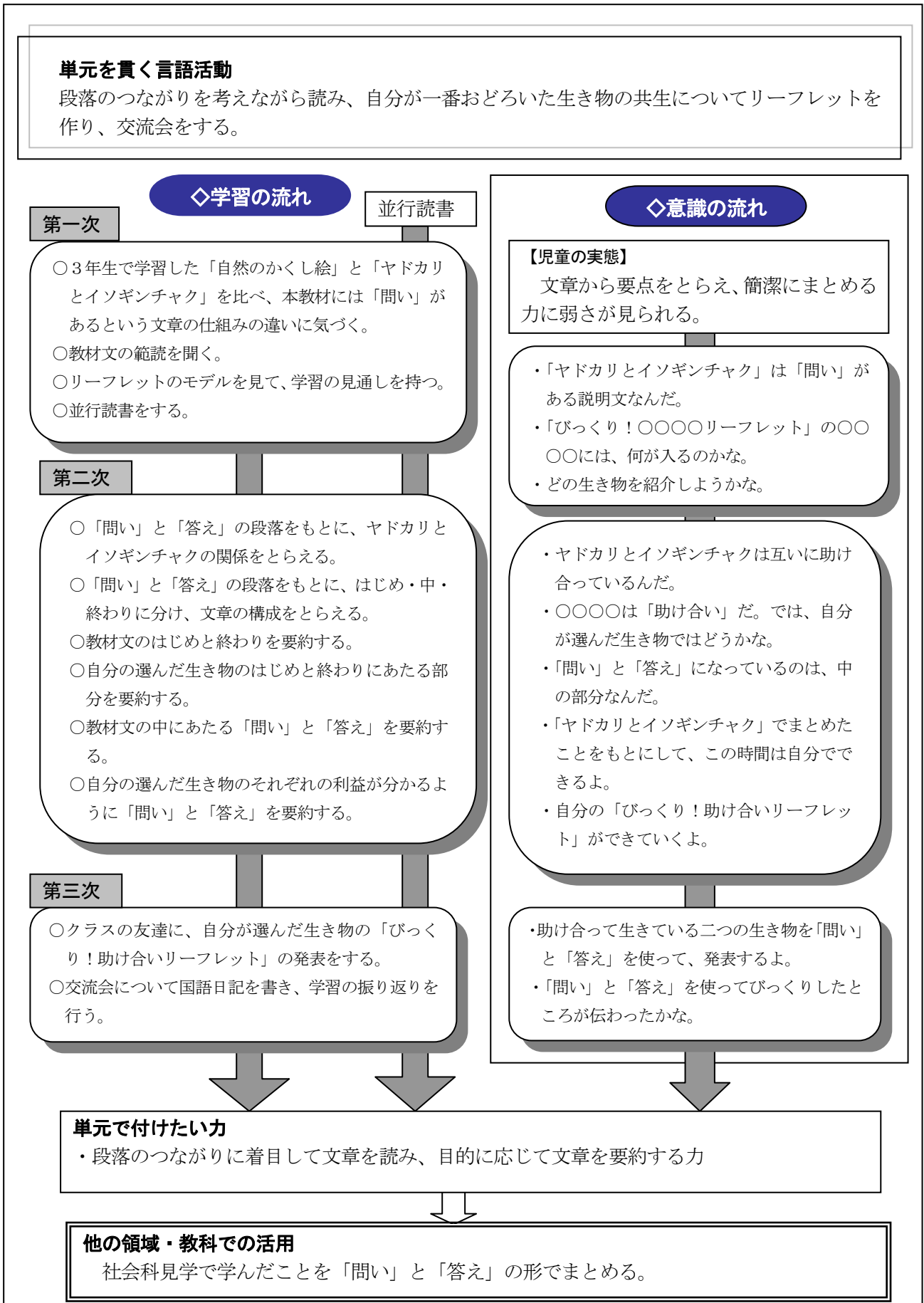
4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・生き物の関係に興味を持ち、助け合いの関係を分かりやすく説明しようとしている。
読む能力	・紹介したい生き物を選び、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を意識して読んでいる。C(イ) ・目的や必要に応じて、助け合いの関係に注意しながら本を読み、文章の要点をつかみ、リーフレットにまとめている。C(エ)
言語についての 知識・理解・技能	・教材文を読み、指示語や接続語が文と文や段落相互の关系到果たす役割を理解している。イ(ク)

<言語活動のモデル 「びっくり！助け合いリーフレット」>



5 単元構想図



6 指導計画及び評価計画 (全9時間)

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	<p>二つの説明文の書き方を比べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヤドカリとイソギンチャク」と3年生で学習した「自然のかくし絵」を比べる。 ・教材文の「問い」の効果に気づく。 	<p>【読】既習をもとに、二つの文章を比べて読み、文章の仕組みの違いに気づいている。</p> <p>(発言・行動観察)</p>
	2	<p>学習の流れを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「びっくり！〇〇〇〇リーフレット」について知る。 ・単元の流れを知り、学習の見通しをもつ。 ・並行読書 	<p>【関】「びっくり！〇〇〇〇リーフレット」に興味をもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>(発言・行動観察)</p>
第二次	3 (本時)	<p>※ びっくり！〇〇〇〇リーフレットにつなげるために</p> <p>筆者が一番伝えたいことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」と「答え」の段落を見つける。 ・ヤドカリとイソギンチャクの関係をとらえる。 	<p>【読】「問い」と「答え」の段落をもとに、ヤドカリとイソギンチャクの関係をとらえている。</p> <p>(ノート、発言)</p>
	4	<p>※ はじめと終わりをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットのつくりを確かめ、「問い」と「答え」の段落をもとに、はじめ・中・終わりの文章構成をつかむ。 ・はじめと終わりを要約し、リーフレットに書く。 	<p>【読】リーフレットという目的にあうように、中心となる語や文をとらえ、要約している。</p> <p>(リーフレット)</p>
	6	<p>※ それぞれの生き物の利益をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤドカリとイソギンチャクの利益を「問い」と「答え」の形に要約し、リーフレットに書く。 	<p>【読】「問い」と「答え」の段落をもとに、段落のつながりを考えながら読み要約している。</p> <p>(リーフレット、発言)</p> <p>【言】指示語や接続語が文と文や段落相互の関係に果たす役割を理解している。</p> <p>(リーフレット、発言)</p>
第三次	8	<p>びっくり！助け合いリーフレット交流会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達に、自分が選んだ生き物の「びっくり！助け合いリーフレット」の発表をする。 ・感想を伝え合う。 	<p>【読】選んだ生き物の助け合いについて「問い」と「答え」を意識して説明したり、感想を持ったりしている。</p> <p>(説明、感想カード)</p>
	9	<p>リーフレットをもとに、学習の振り返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会について国語日記を書く。 ・友だちのリーフレットをもとに、読書を広げる。 	<p>【関】自分の説明を振り返り、読書への意欲を高めている。</p> <p>(国語日記、行動観察)</p>

7 学習の展開

第二次 1時間目 (3/8)

- (1) 目標 問いと答えをもとに、ヤドカリとイソギンチャクの関係について読むことができる。
 (2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 言語活動を確認した後、全文を通読する。 2 本時の課題をつかむ。	○考えてきた問いの段落に対する答えの段落はどこか意識しながら読ませる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto;"> びっくり！○○○○リーフレット につなげるために </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: 50%;"> 筆者が一番伝えたいことを考えよう。 </div>
3 課題を解決する。 (1) 問いの段落を発表し確認する。 (2) 答えの段落がどこか考え、答えの部分に線を引く。 答え1…⑥段落 「敵から身を守ることができる」 答え2…⑨段落 (順序) 答え3…⑪段落 「えさをとる機会がふえる」 「食べのこしをもらうこともできる」 (3) 「びっくり！○○○○」に入る言葉を考える。 ・問いと答えから、筆者がこの教材で一番伝えたいことを考える。 ・○○○○には、「助け合い」が入ることを話し合う。	○その段落を選んだ理由を明らかにさせる。 「～でしょうか。」という文末表現に気づかせる。 ○その段落を選んだ理由を明らかにさせる。 ○問いの「なぜ」「どうやって」「何か」に対する答えの部分を、簡潔にとらえさせる。 ○問いと答えの形を使うことで、筆者の伝えたいことに着目させる効果があることを想起させる。 ○答えの主語を確かめることで、お互いの関係をとらえることができるようにする。 ☆問いと答えをもとに、ヤドカリとイソギンチャクの関係について読んでいる。 <div style="text-align: right;">【読】(ノート、発言)</div> ※挿絵を使って、ヤドカリの利益と、イソギンチャクの利益について提示する。 ○まとめの段落に着目させ、筆者が一番伝えたいことを確認させる。
4 次時の学習について知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 家庭学習 まとまりごとに、どんなことが書かれているか、一言で言えるように考えてくる。 </div>	○教材文ヤドカリとイソギンチャクのびっくり！助け合いリーフレットを作成していくことを伝える。

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆問いと答えをもとに、ヤドカリとイソギンチャクがお互いに利益があることをとらえている。

- ・ヤドカリもイソギンチャクも、いっしょにいることで両方とも利益がある。
- ・ヤドカリもイソギンチャクもお互いにいいことがある。
- ・ヤドカリは敵から身を守れるし、イソギンチャクも食べ残しをもらえる。

A 十分満足できる状況

◆問いと答えをもとに、ヤドカリとイソギンチャクがお互いに利益がある関係にあることをとらえ、「びっくり！○○○○リーフレット」の○○に入る適切な言葉を見つけている。

○○○○に入る言葉は、助け合い

- ・ヤドカリもイソギンチャクも、お互いに利益があり、助け合って生きている。
- ・最後の段落に、お互いに助け合って生きていると書いてあるから、助け合う関係にある。

(4) 板書計画

